

いつまでも
残り続ける
もの

古いものへの注目

なんでも鑑定団

あなたは、テレビ東京の「開運!なんでも鑑定団」という番組をご存知でしょうか?骨董好きやコレクター達が自慢の逸品をプロの鑑定士に見てもらい、本物が偽物かの判断や、予想価格と市場価格の比較などを行う番組です。私の父はこの番組が大好きで、宝くじのような夢のある高揚感が気に入って見ているようでした。この番組で扱うのは主に骨董品や希少価値の高いコレクター品が多いのですが、ここ最近、番組に登場するような骨董品だけではない「古いものの価値」が若者の間でも注目されています。

古くても良いものを見つけた人々

アンティークの調度品やビンテージワインは言わずもがな、両親からのお譲りを取り入れた

「オジカジ」コーディネート、昔の名車への注目、昭和を再現した居酒屋や駄菓子屋、長く使える良質なものと暮らすライフスタイルなど、近年、古いものに注目した流行が多く見られ、古いものを好む人々が増えていることが伺えます。



「オジカジ」(朝日新聞DIGITALより)

デザインの世界でも、センスの良いものをそろえた「D&DEPARTMENT PROJECT」や「PASS THE BATON」といったセレクトリサイクルショップや、古民家をカフェにしたり工場跡をオフィスに改装する「リノベーションデザイン」の動きなど、資源を活用して再加工・再販を行うプロジェクトの事例が増え、徐々に一般にも認知が広まっているようです。

古さを差別化へ繋げる

何でも鑑定団でもそうですが、どんなものに価値があり、どんなものがガラクタとなるのか、個人での判断では悩むところかと思えます。そこで大切なのは、対象物に合った良識を持つ人物

に見極めてもらうことです。これは自宅に眠るお宝に限らず、会社の資産等にも共通します。

規則や社訓は今の会社に合ったものか、製品ラインナップは時代遅れでないか、広報物は古い情報ではないか…等、各社にもそれぞれ、古くからある伝統で残した方が良いもの、考え方が古過ぎて現代にそぐわないものが混在するものです。社内では判断が難しいこうした物事も、第三者であるプロに頼んで、良いものを見極め、取捨選択してもらえば、いらなかったものを排除することができ、また、自然と会社の本質(アイデンティティ)も見えてきます。そしてしっかりとしたアイデンティティを持った会社は、社会において強い存在感を示すことができるのです。

実は、このアイデンティティの抽出作業は、私たちデザイナーの役割の一つでもあります。デザイナーは物事を客観的に見る力を活かし、コンサルティングにも近い、お客様の会社全体に関わる仕事をするのもあるのです。

チラシからリノベーションやブランディングまで、デザイナーという能力を活かし、あらゆるサポートでお客様の役に立ちたい。私たちはそういう思いで、日々デザインに打ち込んでいます。

(企画制作部 佐藤歩美)

行政・中小企業向け

文化メディアワークス

自社スタッフが
講師です!

現場のプロを派遣! 029(221)4813

ビジネスセミナー・研修・講座

「デザイン × 教育」
二つのスキルで
お客さまのお役に立ちます。

●デザイン 企画立案からデザインまでワンストップでプロデュース!

企業のブランディングから、商品開発、農産物直売所POPや売場レイアウト、ツール制作など少人数から受け付けています。
(茨城県・栃木県・各種団体等の実績あり)

●教育 各種プロスタッフやキャリアコンサルタントが丁寧に指導!

ビジネスマナーや接客接遇、PCスキル(Microsoft Office、デザイン系ソフト)社内広報、その他ビジネススキル、PCリテラシーまで幅広くお応えします。